畑ヘルパーで農家を元気にし、地域交流の場を広げる

令和7年9月

～ 畑ヘルパー倶楽部～（奈良市）

畑ヘルパーで農家を元気にしたい

「畑ヘルパー倶楽部®」代表の見掛加奈氏は、農家の現状を知り、農家を元気にしたいという思いから、2016年、農作業を手伝うボランティアグループ「畑ヘルパー倶楽部」を設立しました。

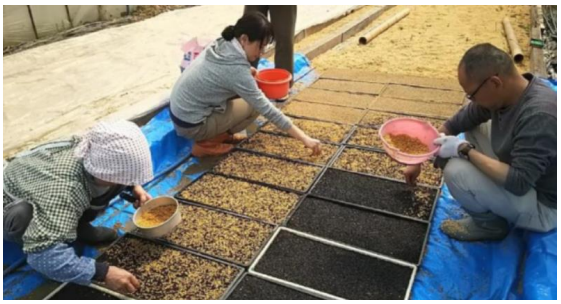
同倶楽部は、人手不足に悩む農家と農作業を手伝いたい人（畑ヘルパー®）をつなぐ仕組みづくりとその運営等を行っており、畑ヘルパーの年齢層は10代～80代で登録者数は約190名、農家数は11軒で、延べ農作業手伝い回数が70回以上になる月もあります（令和７年８月現在）。

畑ヘルパーと受入農家（右）のみなさん

農作業を手伝ってお礼に農産物をいただく「三方良し」のソーシャルビジネス

活動のポリシーは「農家をヘルプする」ことで、農家に負担がかからないようにルールを決めて、お互いが気持ちよく作業できるように心がけています。

農作業を手伝ったお礼として新鮮な農産物をいただく「畑ヘルパー」、人手不足が解消され、金銭的な負担も少なくなる「受入農家」、そして、畑ヘルパーの斡旋料として農家からいただいた農産物をマルシェで販売して経費を賄う「畑ヘルパー倶楽部」、「三方良し」のソーシャルビジネスを展開することで持続可能な取組になっています。



籾蒔き作業の様子

援農に留まらない活動の広がり

取組当初は農作業の手伝いのみでしたが、活動するにつれて餅つきなど農村の暮らしを体験する機会も増え、畑ヘルパーだけでなく受入農家も元気になり交流も深まりました。

近年は、料理教室や婚活イベント、交流会の開催、学生による食育活動などにも取り組んでいます。

「農泊」で農村の魅力を発信し、市街地から人を呼び込む

農作業や農村での体験が心身ともにリフレッシュでき、ストレスの軽減などの効果もあったことから、新たな取組として奈良市田原地区で古民家を改修し「農泊」を計画しています。畑ヘルパーとして農作業を手伝うほか、地区内の工房や醸造所で体験などを楽しむことができます。

市街地から人を呼び込み、農村の魅力を発信し、農業・食料に対する関心を高めることで、農村と都市の交流が広がり地域全体が元気になることが期待されています。

古民家改修作業の様子

畑ヘルパー倶楽部 https://nglnara.xsrv.jp/ 【問合せ先】 Email:ngl.letter@gmail.com